

2017年 5月 15日

## 2016年度研究推進プログラム（科研費獲得推進型）研究成果報告書

採択者	所属機関・職名：衣笠総合研究機構・教授 氏名：鈴木桂子
研究課題	グローバルな連環の中の「きもの」文化—アロハシャツ、スカジャンを中心に

**I. 研究計画の概要**

平成 29 年度科学研究費助成事業—科研費—申請時の研究計画について、概要を記入してください。

明治時代以降、日本製の布地・衣類は世界中に様々に影響を及ぼし、その中で「きもの」用のモノ・技術・デザイン等は、現地消費者のニーズに合わせ様々に工夫され、変化してきた。本研究は、従来の「和装」史では見えてこない、グローバルな広がりのある「きもの」文化を考察する。具体的には、(1) ハワイでの着物生地のアロハシャツの誕生から、そのグローバルな普及、(2) 戦後の外国人用お土産として開発されたスカジャンやハッピーコート、(3) アロハシャツやスカジャンの日本での定着、若者文化との関係、(4) 戦前より京都から米国に輸出された捺染生地、に焦点を当て、グローバルな連環の中に「きもの」文化を位置づけ、その意味を再検討する。

繊維製品のトランス・ローカルな移動を、実際に生産から、海を渡り消費されるまでを追跡し、様々に関わった社会的当事者に聞き取り調査をし、その意味づけについて考察する。28年度は、基本的な情報・資料の収集を桐生と京都、ハワイで集中的に行う。桐生では、学術的な調査がされていない横振りミシンと、それを利用したスカジャン製造の歴史について、聞き取り調査・文献調査をする。京都では、ハッピーコートなどの外国人向けお土産物の製造・販売者に聞き取り調査をするほか、京都工芸繊維大学と大同マルタ会役員の協力を仰ぎ、大同マルタ・コレクションの研究とデータベース化を進める。また、ハワイでも資料調査・聞き取り調査を遂行する。

**II. 研究成果の概要**

本プログラムの助成を受けたことによる研究成果について、概要を記入してください。

研究成果は以下で出版・発表した。

- ・ 編集執筆 青木美保子、翻訳 鈴木桂子『京都の墨流し染・糊流し染—その系譜と新たな可能性—』2016年、京都工芸繊維大学美術工芸資料館他
- ・ 鈴木桂子・加茂瑞穂共編『国際ワークショップ 学術資料としての『型紙』—資料の共有化と活用に向けて 報告書』2017年、立命館大学アート・リサーチセンター（本報告書完全版・カラー版：[http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/app/news/20161029-30\\_hokokusho\\_web.pdf](http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/app/news/20161029-30_hokokusho_web.pdf)）
- ・ Keiko Suzuki, “Japan's Souvenir Business for Foreign Tourists after WWII,” 2016年6月, AAS in Asia, Kyoto 2016, 同志社大学、査読有
- ・ Keiko Suzuki, “A Uniform to Embody a Tropical Paradise: Domestication of the Aloha Shirt in Asia,” 2016年7月, Dressing Global Bodies, カナダ・アルバータ大学、査読有

主催・共催したシンポジウム・研究会等

- ・ 研究ワークショップ「20世紀日本ファッション産業の仲介者たち」、衣笠キャンパス、2016年6月、50名参加
- ・ 国際ワークショップ「学術資料としての『型紙』—資料の共有化と活用に向けて」、衣笠キャンパス、2016年10月、70名参加
- ・ 展覧会「京都の墨流し染・糊流し染—その系譜と新たな可能性—」京都工芸繊維大学美術工芸資料館1階、2016年5月23日～2016年6月11日